

推薦する取り組み	園館名
ニホンカモシカのマーキング行動を引き出すための においを用いた環境エンリッチメント	飯田市立動物園

## 推薦理由

野生のニホンカモシカは、単独生活でなわばりを持ち、眼下腺から出る分泌物を木の枝先にこすりつけるなどのマーキングにより、隣り合う別個体になわばりを示す。

当園ではカモシカを飼育しているが、2017年9月より単独飼育が続いており、それまでの複数頭飼育の時に比べて、マーキングが少ないのではないかと感じた。実際に眼下腺からの分泌物がカサバタ状になることもあった。

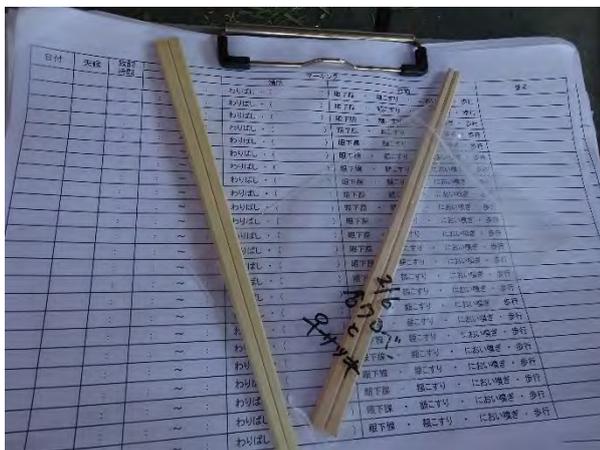
マーキングの減少は、直接身体の健康を害する要因にはならないかもしれないが、カモシカが本来野生で行っている行動が減り、さらには来園者にカモシカの魅力を伝える機会が減ることにもなる。

そこで他園の個体の眼下腺から出た分泌物を入手し、それを当園の獣舎内に設置することで、他個体のおいが刺激となり、当園の個体のマーキングが増加するのではないかと考えた。

そんな中、以前よりカモシカについて意見交換をしていた、埼玉県こども動物自然公園のカモシカ担当者にご協力いただけることになり、両園の獣舎にわりばしを設置し、そこにカモシカが眼下腺をこすってつけた分泌物を集め、そのわりばしを交換する形でこのエンリッチメントに取り組んだ。あわせて、当園ではその効果を検証するため、埼玉からの分泌物の設置時と非設置時の行動についての観察とデータの収集をした。データ収集は、マーキングをよく行うと考えられる、朝のバックヤードから放飼場への放飼後5分間行った。

その結果、埼玉のわりばし非設置時のわりばしに対する眼下腺のこすりつけの合計時間は、観察時間中の0～13%であったのに対し、埼玉のわりばし設置時には、最低でも6.0%、最高で33.3%にまで増加した。

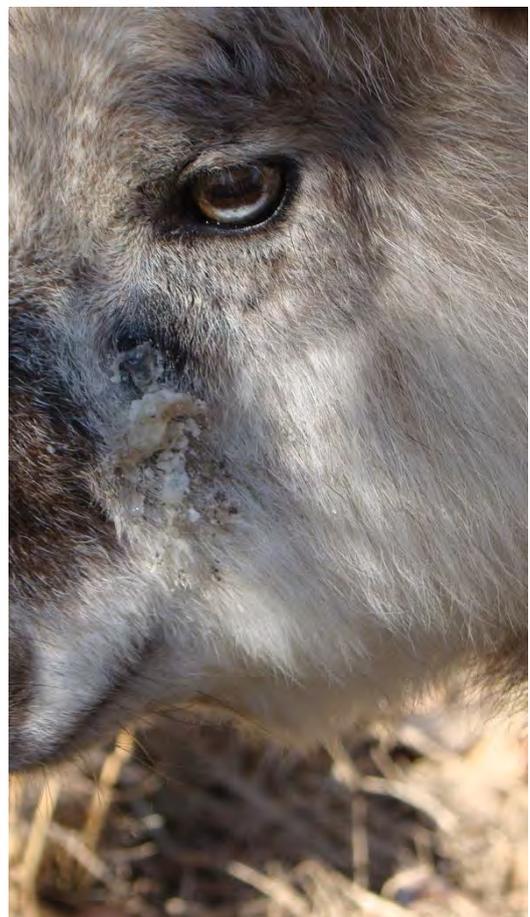
また、この方法による分泌物の交換は、当初の狙いに加えて、カモシカの交換や移動の際に、事前に双方の個体を認識できる機会を作り、個体間のトラブルを減らすなどの意味でのエンリッチメントの効果も期待できるかもしれない。



調査材料



マーキング



カモシカ眼下腺